

1. ふろタンインタビューの軌跡

「ふろんていあタウン工房」の設立が2014年6月16日、その年の12月「ミンガラバー・ユネスコクラブ」の設立準備に取り組んでいた安彦さんと小野寺さんにお話を伺ったのが「ふろタンインタビュー」のスタートです。その後も目的を共有する人たちや団体の方との交流を目指して積極的にインタビューを進め、ホームページに掲載して皆さんに関心を持って読んでいただけてきました。



- | | | | | |
|--------|-------------|-------------------------|------------|----------|
| Vol.1 | 2014年12月10日 | カフェと雑貨「ほれやあれ」 | 安彦隆さん | 小野寺有菜さん |
| Vol.2 | 2015年4月27日 | 「御嶽山」と「百草丸」 | | 井原正登さん |
| Vol.3 | 2015年8月13日 | 天空の山と「祈りの造形」 | 大成浩・栄子ご夫妻 | |
| Vol.4 | 2015年12月13日 | 植物図鑑で森守れ | 藤川和美さん | 安田重雄さん |
| Vol.5 | 2016年5月19日 | 百名山登山にも色々なシナリオがある! | | 小野寺昭さん |
| Vol.6 | 2016年11月27日 | ミャンマー手しごと雑貨の店 | | 和田直子さん |
| Vol.7 | 2017年5月23日 | ミャンマーの時の流れを想う | | 岡本郁子さん |
| Vol.8 | 2017年9月27日 | 《びるまの竖琴》で「ビルマの竖琴」 | ココさん | 林茂雄さん |
| Vol.9 | 2018年2月9日 | 「年中行事と室礼」+「江戸東京学」のまちづくり | 高橋賢一・久子ご夫妻 | |
| Vol.10 | 2018年12月21日 | まちナビ倶楽部の「居心地観察会」 | 桂久誼さん | 小澤一美さん |
| Vol.11 | 2020年1月17日 | ミャンマーとの絆「今泉記念ビルマ奨学会」 | 今泉清嗣さん | ティティレイさん |

「ふろタンインタビュー」は聞き取り・編集インタビュー、インタビュー項目を事前にお伝えし、テープ起こしをせず自由な流れでお話しいたします。

手書きの聞き取りメモで編集用原稿を作成、内容を確認いただき再構成して掲載しています

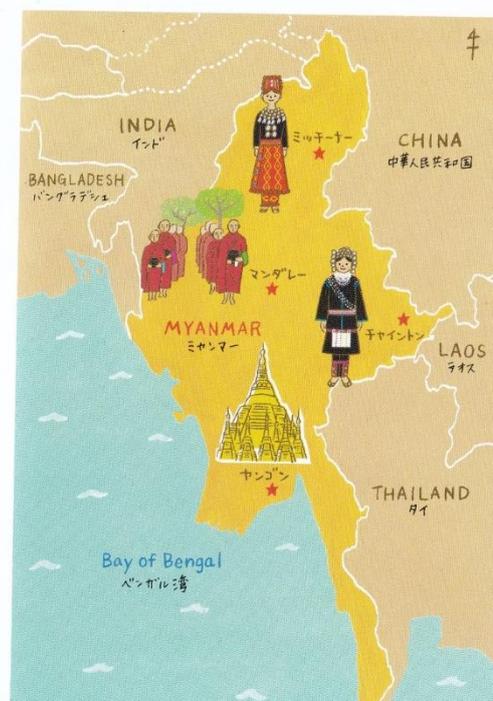
「コンパクトで中身の濃いインタビューコーナー」を目指しています

2012年1月の第11回で今泉さんとティティレイさんに「今泉記念ビルマ奨学会」のお話を伺ったその後から新型コロナウイルス禍で外出禁止・イベント中止など先の見えない自粛ムードが拡がり、「ふるたんインタビュー」も止まったままになりました。

自粛生活の暇な時間、今迄のインタビュー用のメモなどが入ったファイルを取り出したりして眺めたりしていましたが、その中から実現できなかった二つのインタビュー企画のメモが出てきました。

2. ミャンマーのすてきな手仕事をめぐる旅

「ミャンマーのすてきな手しごとをめぐる旅」はグラフィック社から2014年7月に初版発行で出版された本の名前で著者春日一枝さん、本の帯には「誰もがなつかしいと思えるようなミャンマーの風景から生まれた心あたたまる刺しゅうや織物が、ていねいに綴られています」と書かれています。最終ページの著者のプロフィール紹介には、「2010年春にBahar（ペルシャ語で春）として活動をスタート、現在は清澄白河のfukadasoにてワークショップを開催したり、アトリエショップをオープンしている」と書いてあります。



2013年3月のURワンダーフォーゲル同好会のマンマーチン州・ビクトリア山登山（第1次）の後、2014年2月には「ふるんていあタウン工房」設立準備室から「フロンティアまちづくり読本」出版し、ビクトリア山調査登山も2015年11月で第3次迄終えて、旅行社ピース・イン・ツアーの八井さんと相談してトレッキングと伝統織物見学を組み合わせたスタディツアーを2017年4月に初めて企画しました。

参加者募集を目指して動きまわっていた時に出会った本が、「マンマーのすてきな手仕事をめぐる旅」だったので。

ふるんていあタウン工房が目指しているビクトリア山はマンマー中央部から西に向かってチン州に進みチン族の伝統織物に触れる旅ですが、「マンマーのすてきな手仕事をめぐる旅」は中央部から逆の東シャン州のチャイントンの手仕事を紹介し、さらに北上してカチン州のミッチーナに向かって数多くの織物・手仕事を紹介しています。

清澄白河駅の近くには深川江戸資料館があり、江東区の昭和の匂いがするアパート深田荘にあるBaharのアトリエショップに春日一枝さんを訪ねてこの本を買いました。

その後も何度かお邪魔してBaharの活動のことなど伺っていましたが、スタディツアーに合わせて是非ふるたんイン



タビュウコーナーにご登場いただこうと「質問項目メモ」を春日さんにお渡ししました。

1. Bahar という名のこと
2. ミャンマーの手しごとに関心を持たれたきっかけ
3. 訪れた村の手仕事と生活風景で特に感じられたこと
4. 少数民族のこと
5. Bahar の活動をスタートさせるまでのこと
6. これからの夢

聞き取り編集インタビューのことを説明して色々とお話ししましたが、最終的には出版などのスケジュールが立て込んでおられて時間的に難しいということになり、残念ながら実現できなかった二つのインタビュー企画メモファイルの中に、その一つ目として入ってしまいました。

Vol.6.5 2017年3月X日 ミャンマーのすてきな手しごとをめぐる旅 春日一枝さん

Vol.6の和田直子さんの「ミャンマー手しごと雑貨の店」とVol.7の岡本郁子さんの「ミャンマーの時の流れを想う」の間に入るインタビューですから、仮にVOL.6.5としておきましょうか。もし実現していたら永年ミャンマーに取り組む女性3人の連続インタビューになるところでした。

3. 「日本50名山」新春お楽しみ選考会

二つめのインタビュー企画メモのタイトルは「日本50名山」新春お楽しみ選考会、この企画メモには選考メンバーの名前も書いてなく、AさんSさん+Mとなっている不思議な1枚のメモで、メモの日付は2017.10となっています。

1. AさんSさんが、百名山の内思い出に残っている山を古い順に 25山 をそれぞれ選んで、山ごとに思い出メモを作成。
 - ・一山100~150字程度（深い思い出のある山は長くても結構です）
 - ・12月中旬頃までをお願いします。
 - ・10山程度の写真（自分が写っているものも含めて）を提供ください。

↓
2. 二人が重なって選んだ山の数の分だけ別の名山をMが追加してメモを作成。

↓
3. 出揃ったS+A+M=「日本50名山」のメモを合成して、Mがインタビュー形式に編集した原稿を作成。

↓
4. お二人に原稿の校正・確認いただきます。

↓
5. 完成原稿を、ふろんていあタウン工房のホームページ新春号に掲載。

2017年9月発行のURワングル同好会機関紙「渡り鳥通信」1007号が2017年9月9日にワングルメンバー9名で乗鞍岳に登り、赤川勉さんの日本100名山達成を皆で祝福している写真を載せています。頂上の道標を持って真ん中に写っているのがふろたん工房スタート時からのメンバーでもある赤川勉さんです。



赤川さんがメモにある A さんです。「渡り鳥通信」を読んだ人から他にも既に百名山達成の仲間がいることを伝えられ、その中に S の鈴木規子さんがいました。M はインタビュー原稿を纏め役の室井です。三人とも当時日本橋の西川ビルにあった㈱UR リンケージに所属していました。



鈴木さんは、日本橋の西川ビルに移転する前の九段下交差点の小さなビルの中にあっただけ都市開発技術サービスの時代からずっと秘書を務めてこられた方です。控えめで丁寧な対応が評判で、「小さな会社なのに秘書の方は大会社並ですね」などと声をかけてくる来客の方もいました。

Vol.8.5 2018年1月X日「日本50名山」新春お楽しみ選考会 赤川勉さん 鈴木規子さん

正月のゲーム感覚で「日本50名山」新春お楽しみ選考会をやってみようと呼びかけた企画メモです。メモの日付から新春は2018年の正月、Vol.8のココさん・林茂雄さんとVol.9の高橋賢一・久子ご夫妻との間の時期ですから Vol.8.5 ですね。

まずは鈴木さんに選考会の企画メモをお渡しして主旨・スタイルを説明、了解して受け取ってもらいました。しかし数日たって選考会の準備を進めようと考えていた時にメールが届き、後日改めて声を掛けられ丁寧に辞退されてしまいました。ウーン残念…！

以上、二人の美女にフラれてしまった幻のインタビュー企画でした。